教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 看護学科　　資格： 助教（臨床）　　氏名： 山中　晶子

研究分野	研究内容のキーワード
老年看護学	透析看護，高齢透析患者，ACP，看護倫理
学位	最終学歴
修士（看護学）	武庫川女子大学大学院看護学研究科修士課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.老年看護学実習　実習指導	2024年9月24日～現在	老年看護学実習（専門教育科目、3年次後期～４年次前期配当）において、地域で生活する高齢者を支える制度の理解と、社会的資源や専門職の連携が理解できるよう指導している。新カリキュラムへの移行の伴い、看護展開する場が病院から介護老人福祉施設に変わり、より一層生活機能に着目した看護展開が求められるようになった。学生が主体的に学べるよう、実習前の個別面談実施により実習目標とレディネスを確認し、座学での学びの振り返り、実施する看護技術の提示により事前準備が整うよう指導している。事前学習効果により実習１週目から認知症患者へ積極的にコミュニケーションを図り関わることに繋がっている。また、看護展開では、健康課題だけでなくニーズや特徴を捉え既往歴、一次老化、二次老化が生活におよぼす影響について考え看護を焦点化でき、看護計画立案・実施・評価を通して看護展開ができるよう学生のペースに合わせて指導をしている。看護計画立案時には、受け持ちする対象者のこだわりやニーズ、特徴を踏まえて目標設定し、対象者が無理なく実施可能なケア計画とすることや、状況によっては代替案が提案できるプランを準備し、対象者の好みやその日の調子に合わせたケアが提供できるよう実習指導者、介護士と連携し指導している。看護計画実施・評価では、支援後の対象者の反応や表情の変化を学生が見逃すことなく観察できるよう助言し、対象者の反応から看護の意味付けを行い、看護の意義や醍醐味を実体験できるよう工夫している。さらに、対象者以外の入居者とのコミュニケーションやグループでのレクレーション等の提案や教員も輪の中に入るよう心がけ、他の入居者が疎外感等の感情を抱かないよう配慮している。受け持ち対象者以外との関わりや、グループメンバーでの看護を共に考えることで、個別性や多様性へ対応できる能力が育成できるよう指導に当たっている。
2.老年看護学実習Ⅱ　疾患を患う高齢患者の紙面事例患者を用いた遠隔実習指導	2023年1月10日2023年1月20日	老年看護学実習Ⅱにおいて、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、病院実習が中止となったことから、事例患者（パーキンソン）への看護過程の展開をGoogle Classroomおよび Meetを用いて学内対面と遠隔で行った。教員が患者役を行い学生による退院指導が実践できた。
3.老年看護学実習Ⅰ　地域で生活する高齢者と地域で高齢者を支える人々と制度の理解	2022年10月27日2022年11月4日	老年看護学実習Ⅰにおいて、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、施設実習が中止となったことから、Google Classroomおよび Meetを用いて学内対面と遠隔で行った。認知症患者の理解、地域包括支援センターと居宅介護支援事業所の違い、介護老人福祉施設の多職種・看護師の役割と多職種連携、介護老人福祉施設を利用する高齢者の健康課題、高齢者のレクレーションの意義について学習し、実際にレクレーションの企画・実施・評価を行った。
4.老年看護学実習Ⅱ臨地実習　全期間の実習指導	2022年5月1日2024年7月12日	老年看護学実習Ⅱ（専門教育科目、3年次後期～４年次前期配当）において、入院を必要とする高齢者の健康

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		問題を理解し、看護過程展開ができるよう指導を行っている。実習前に個別面談の実施により実習目標とレディネスを確認する。主体的な学習が進められるよう実習中に必要だと思われる資料は事前準備する。実習１週目は、現疾患だけでなく既往歴、一次老化、二次老化が身体におよぼす影響、入院と治療がおよぼす影響について考え全人的に理解し看護上の問題点を抽出できるよう学生のペースに合わせて指導をしている。看護計画立案時には、現在の患者の状況と患者の意思を踏まえて目標設定することや、計画実施の際も患者の状況によっては代替案も提案できるプランを考えることにより、個別性のある看護を体現できるように工夫している。また、病棟の看護計画と大幅なズレが生じないように、臨地実習指導者と協働し指導に当たっている。看護計画実施と評価では、援助を通して患者の言動や看護の効果についてリフレクションを行い、計画評価・修正に反映できるよう指導している。さらに、グループメンバーで疾患や状況の異なる看護を共に考えることで、個別性、多様性への理解を深めることができるよう指導している。
5.新人看護師と臨床看護師の卒後教育	2010年9月1日～2018年8月30日	認定看護師として病棟看護師を対象に、高齢患者の困難事例への対処についての教育を行った。具体的には病棟に赴いてカルテを見ながら、困難事例や看護問題を紐解き全人的理解を促し、対象特性を捉えた看護支援についての教育を行う。
2 作成した教科書、教材		
1.老年看護学実習のオリエンテーション資料	2024年3月1日～現在	新カリキュラム「老年看護学実習」（専門教育科目：3年次後期～４年次前期配当）の実習オリエンテーションにおいて、学生が円滑な実習が行えるように各実習施設での留意点・感染予防対策等を記載した資料を作成。実習要項をと合わせて実習前にオリエンテーションを行うことで、学生は具体的な実習展開が理解でき、円滑に実習を進めることができている。
2.老年看護学演習Ⅱ　学内演習資料	2023年4月1日～現在	「老年看護学Ⅱ」（専門教育科目：3年次前期配当）学内演習において、高齢者とのコミュニケーションや高齢者体験を通して、3年次後期からの実習へ繋ぐことができるよう、事前学習・体験後のレポートを含む演習資料を作成。学生は、演習を通して高齢者との関わり方や看護支援時の留意点の理解を深めることで、老年看護学実習時へ向けた知識・技術の獲得に繋げる学習ができている。
3.新体系看護学全書　腎・泌尿器　成人看護学看護学７	2022年11月30日	疾患を持った患者の身体で進行している生理学・病理的過程はどのようなもので、患者の生命と生活のどのような影響を与えるかが理解でき、個別的な看護が考えられる基礎教材として、臨床傾向を合わせた内容を記載した教材である。
4.老年看護学実習Ⅰ・老年看護学実習Ⅱのオリエンテーション資料	2022年4月1日～現在	「老年看護学実習Ⅰ・老年看護学実習Ⅱ」（専門教育科目：3年次後期～４年次前期配当）の実習オリエンテーションにおいて、学生が円滑な実習が行えるように各実習施設での留意点・感染予防対策等を記載した資料を作成。実習要項をと合わせて実習前にオリエンテーションを行うことで、学生は円滑に実習を進めることができている。
5.看護倫理カンファレンスの基準・手順と事例集	2018年4月1日～2018年8月迄	患者の権利を擁護できるよう、看護の役割を具体的に示し、倫理カンファレンス開催手順・事例集を作成し、看護実践ができるよう看護教育教材を作成。
6.新人看護師教育カリキュラム	2010年4月1日～2018年8月迄	新人看護師教育カリキュラムと年間講義資料12回分（看護倫理。医療安全、看護技術、看護過程など）を作成し新人看護師の教材とした。
7.慢性腎臓病保存期外来看護－医療連携手順・基準	2006年9月1日～2018年8月迄	看護外来の開設とCKD看護の治療パスを作成。その後、

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
		地域でCKD患者の早期発見と医療連携を目的に地域医療連携パスを作成し、クリニックと基幹病院の各職種の役割、患者への指導内容を明確にした。定期的な学習会の開催で、ＣＫＤ保存期看護の役割と支援内容を地域の開業医・看護師に啓蒙し、看護師向けの教材を作成する。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.看護大学看護学部　非常勤講師	2019年9月1日2022年3月30日	非常勤講師として、成人看護学Ⅲの科目の中の担当した授業の中で、アクティブラーニング(ミニッツテストや学生同士複数人で意見を出し合い考えをまとめる学習方法)を実践した。
2.透析看護認定看護師	2006年7月1日2018年10月31日	認定看護師として、スタッフ看護師に対して看護研究教育を行い、毎年1人、研究計画・研究実施・日本透析医学会と腎不全看護学会での学会発表を指導する。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.日本看護協会透析看護認定看護師 2.看護師免許	2006年7月1日 1996年	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.広報・入試委員としての活動	2024年4月1日～現在	武庫川女子大学看護学部の広報・入試委員として、大学の広報活動・入試業務に携わった。おもに、オープンキャンパス、看護学部のBlog更新、学科パンフレット・キャンパスガイドの作製を担当している。
2.看護ICT	2023年4月1日2024年3月31日	看護学部のICT機器の一覧表を作成し、管理・メンテナンスを行った
3.看護師国家試験対策委員	2022年4月1日2024年3月31日	3年生約10名の学生を7月から担当し定期的な面談を実施した。個人面談では国家試験の勉強を行う上での悩みや学習状況を確認し、実習前には実習と国試の繋がりが理解できるよう説明し、模擬試験結果の見方、模擬試験問題の解き直しの必要性を説明し、実習中の学習計画を共に考えた。2月には模試結果と実習経過を踏まえて今後の学習計画と目標立案のサポート支援をおこなった。 4年生へは、4月より東京アカデミー主催の模擬試験担当、集中講座の会場設営・講師対応・学生の出欠席確認、国家試験出願書類作成支援、模擬試験結果を保護者宛に郵送するための封入作業、国家試験応援絵馬ボード作成・掲示、国家試験受験用応援グッズの準備・配布、国家試験自己採点会の準備、合格発表の準備等を行っている。その他、成人看護学・老年看護学に関連した国家試験過去問題・予想問題に関する質問・相談に対応を行った。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.【第2編】　腎・泌尿器疾患患者の看護 第1章　主な症状に対する看護、第2章　主な検査と治療に伴う看護	共	2022年11月30日（刊行）	株式会社メヂカルフレンド社　新体系看護学全書 腎・泌尿器　成人看護学看護学７ pp.276-285 pp.	疾患を持った患者の身体で進行している生理学・病理的過程はどのようなもので、患者の生命と生活のどのような影響を与えるかが理解でき、個別的な看護が考えられる基礎教材として、臨床傾向を合わせた内容を記載した教材である。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
			319-322	
2 学位論文				
1.高齢維持血液透析患者に関わる看護師の倫理的問題と対処の実態	単	2021年3月	武庫川女子大学	高齢維持血液透析患者に関わる看護師186名の倫理的問題と対処の実態を明らかにした。
3 学術論文				
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.対象理解を深めるための看護理論を用いた臨床看護指導	単	2012年5月	第57回　日本透析医学学術集会・総会 ワークショップ 認定看護師の医療現場と将来	認定活動の振り返りと組織評価を踏まえた今後の展望について報告した。
２．学会発表				
1.透析看護認定看護師が高齢液透析患者へ終末期の医療とケアに関する意思確認を開始するタイミングーデルファイ法を用いた調査からの検討ー	単	2024年11月9日10日	第27回日本腎不全看護学会学術集会・総会 「大会長賞」受賞	全国の潮汐看護認定看護師を対象にデルファイ法を用いた質問紙調査を実施した。第1調査では45項目、第2調査では37項目の「高齢高齢液透析患者へ終末期の医療とケアに関する意思確認を開始するタイミング」について「非常に必要である」～「全く必要でない」の５段階で回答を求めた。第１調査では103名、第2調査は90名より回答を得た。「非常に必要である」と「必要である」の合計が80％以上の項目を同意を得た項目として採用した。第1調査で同意を得た15項目は第2調査でも同様に同意を得た結果、21項目の意思確認を開始するタイミングを明らかにできた。意思確認を開始するタイミングとして、透析治療を安全に実施することが難しい等の透析患者特有の身体状態の変化だけでなく、患者の思いの揺れや迷いに寄り添い、患者の望む生き方や考えを知る機会を作り、代弁者として患者の希望を引き出す関わりを重要視していると考えられた。本研究結果は、意思決定支援経験の浅い看護師であっても患者の身体状態や言動などの情報と合わせてアセスメントすることで、意思確認開始の判断指標として活用できると考える。
2.高齢維持血液透析患者に関わる看護師の倫理的問題と対処の実態	単	2021年11月13日14日	第24回日本腎不全看護学会学術集会・総会	全国の維持透析施設で働く透析看護経験5年以上の看護師を対象に郵送法による調査を実施した。回収率26%、透析継続の意思決定支援経験のある看護師は37.1%、維持血液透析の開始と継続に関する意思決定プロセス提言2014の認知度は66.２%、理解度は28.4%、倫理的問題の体験頻度得点は105点中24.3点、倫理的問題の相談相手は88.2%が身近な看護師であった。定期的な看護倫理カンファレンスの開催は19.9%、看護倫理研修開催は43.５%であった。倫理的問題の体験頻度と看護倫理研修開催の割合は一般病棟で働く看護師と比較して低いことから、倫理的問題に気づくための倫理教育と、倫理的問題に対処するための話し合いの場の設置の必要性が示唆された。
３．総説				
1.臨床透析2024年3月号　＜特集：“透析看護”研究、論文発表に繋げよう！＞ コラム：2 査読者の見る視点はどこを見ているか	単	2024年3月	日本メディカルセンター 臨牀透析40巻3号 pp.314-316	査読は立場を同等とする研究者同士が論文の科学性を真摯に探求し，掲載論文の質を担保するための仕組みである．査読者には，投稿論文を評価し，その雑誌に掲載するのが適切であるかを編集者に提言することと，コメントを作成することにより論文の質の改善を助ける重要な役割がある．学会誌ごとの投稿規定には，「○○の看護学の発展に寄与する研究」といった領域と定める学術分野と知見の質が示され，種類の定義と併せて説明がなされているが，論文執筆の作法についての明記は見当たらない．筆者の経験と引用文献から導いた査読者の視点について述べた．
2.総論:透析患者にとってのキュアとケア	共	2021年2月	透析ケア27号2巻.メディカ出版 pp.106-107	透析患者がその人らしく生きることを支えるキュアとケアについての総論についてまとめた

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
３．総説				
3.腎不全患者に対するACPの考え方と実践事例	単	2020年4月	呼吸循環脳実践ケア.日総研出版.41号3巻 pp.76-84	腎不全患者のACPの考え方と各期(保存・導入・維持・終末)の看護支援について事例を用いて解説
4.透析患者のよくある症状とケア	共	2016年3月	透析ケア2016夏樹増刊 pp.123-143	透析室で気を付けたい症状「終始うつらうつらしている」「歩きづらそうにしている」「会話の調子がおかしい」の3症状に対して、病因、看護、予防の視点から解説
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
６．研究費の取得状況				
1.透析看護認定看護師が高齢液透析患者へ終末期の医療とケアに関する意思確認を開始するタイミングーデルファイ法を用いた調査からの検討ー	単	2022年	一般社団法人　日本腎不全看護学会　研究助成金	研究代表者：武田(山中)晶子 本人の担当部分：研究総括、データ収集、分析 共同研究者：あり（研究代表者）
2.医師より慢性腎臓病以外の命に関わる病気の診断を受けたことのない高齢維持血液透析患者がアドバンス・ケア・プランニングについて考えたきっかけ	単	2022年	科学研究費補助金 （研究活動スタート支援）	研究代表者：山中晶子 本人の担当部分：研究総括、データ収集、分析 共同研究者：あり（研究代表者）
3.高齢維持血液透析患者に関わる看護師の倫理的問題と対処の実態	単	2019年	一般社団法人　日本腎不全看護学会　研究助成金 研究代表者：武田(山中)晶子	研究代表者：武田(山中)晶子 本人の担当部分：研究総括、データ収集、分析 共同研究者：あり（研究代表者）

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2024年11月24日	慢性腎臓病予防　市民公開講座（神戸市）　座長
2.2024年11月8日～2024年11月10日	第27回（2024年）日本腎不全看護学会学術集会・総会　運営委員
3.2024年7月～2024年8月	第27回（2024年）日本腎不全看護学会学術集会・総会　査読委員
4.2024年6月～現在	慢性腎臓病予防　市民公開講座（神戸市）運営委員
5.2024年4月～2024年7月	第55回（2024年度）日本看護学会 抄録査読委員
6.2024年3月～現在	第28回（2025年）日本腎不全看護学会学術集会・総会　査読委員長
7.2024年3月～現在	第28回（2025年）日本腎不全看護学会学術集会・総会　企画委員
8.2023年11月19日	第26回（2023年）日本腎不全看護学会学術集会・総会　一般演題座長
9.2023年11月18日	第26回（2023年）日本腎不全看護学会学術集会・総会　トピックス講演座長
10.2023年9月30日	第54回（2023年度）日本看護学会学術集会　一般演題座長
11.2023年4月～2023年7月	第54回（2023年度）日本看護学会 抄録査読委員
12.2022年4月～2024年7月	第26回（2023年）日本腎不全看護学会学術集会・総会　企画委員
13.2022年4月～2023年11月	第26回（2023年）日本腎不全看護学会学術集会・総会　査読委員長
14.2022年4月～2022年7月	第53回（2022年度）日本看護学会 抄録査読委員
15.2021年3月～2021年6月	第52回（2021年度）日本看護学会 抄録査読委員